

# 東北地方 1 か月予報

( 2 月 2 1 日から 3 月 2 0 日までの天候見通し )

平成 1 6 年 2 月 2 0 日  
仙台管区气象台発表

## < 予想される向こう 1 か月の天候 >

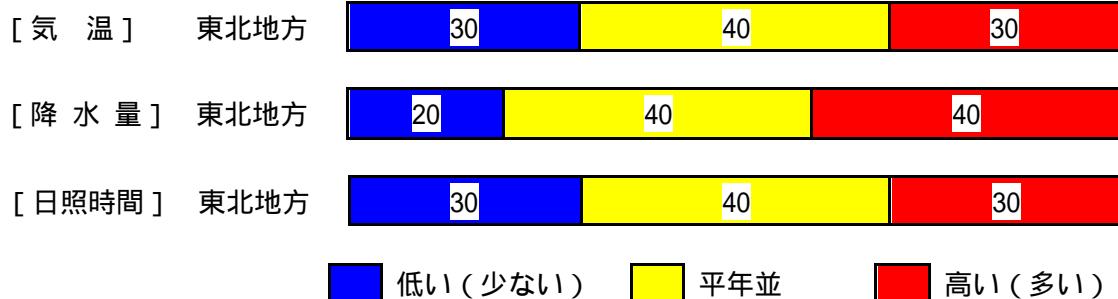
向こう 1 か月の実現の可能性が最も大きい天候は以下のとおりです。

気圧の谷が数日の周期で通過し、通過後は冬型の気圧配置となるでしょう。寒暖の変動が大きい見込みです。平年と同様に、東北日本海側では曇りや雨又は雪の日が多く、東北太平洋側では晴れの日が多いでしょう。

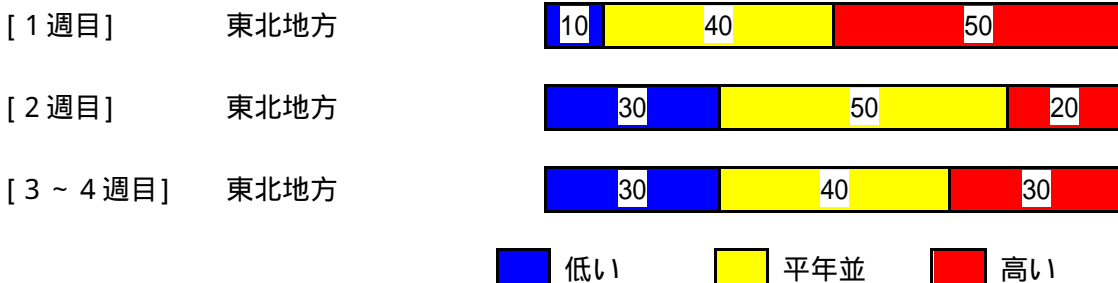
向こう 1 か月の平均気温は平年並、降水量は平年並か多い、日照時間は平年並でしょう。

週別の気温は、1 週目は高い、2 週目、3 ~ 4 週目は平年並の見込みです。

## < 向こう 1 か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率 ( % ) >



## < 気温経過の各階級の確率 ( % ) >



## < 予報の対象期間 >

1 か月      :    2 月 2 1 日 ( 土 ) ~    3 月 2 0 日 ( 土 )  
1 週目      :    2 月 2 1 日 ( 土 ) ~    2 月 2 7 日 ( 金 )  
2 週目      :    2 月 2 8 日 ( 土 ) ~    3 月    5 日 ( 金 )  
3 ~ 4 週目 :    3 月    6 日 ( 土 ) ~    3 月 1 9 日 ( 金 )

## < 次回発表予定等 >

1 か月予報 : 毎週金曜日    1 4 時 3 0 分    次回は 2 月 2 7 日  
3 か月予報 : 2 月 2 5 日 ( 水 )    1 4 時 0 0 分  
暖候期予報 : 2 月 2 5 日 ( 水 )    1 4 時 0 0 分

< 参考資料（平年並の範囲等） >

（１）30 年平均値（向こう 1 か月の平均気温、降水量、日照時間と 1 週目、2 週目、3 ～ 4 週目の平均気温）

	気 温 ( )	降 水 量 (mm)	日照時間 (時間)	気 温( )		
				1 週目	2 週目	3 ～ 4 週目
大船渡	2.4	69.7	154.6	1.5	1.9	3.0
新庄	0.8	113.4	92.2	-0.3	0.3	1.4
若松	1.5	61.9	121.6	0.3	1.0	2.3
深浦	1.4	73.3	87.1	0.4	1.0	2.1
青森	0.7	77.5	112.6	-0.4	0.2	1.4
むつ	0.2	75.2	127.6	-0.8	-0.3	0.8
八戸	1.0	47.0	153.5	-0.2	0.5	1.6
秋田	1.9	89.1	105.4	0.8	1.5	2.6
盛岡	0.4	66.2	149.5	-0.8	-0.1	1.2
宮古	1.8	77.1	165.7	0.8	1.4	2.4
酒田	3.0	98.2	98.3	2.0	2.6	3.7
山形	1.7	64.0	127.9	0.4	1.2	2.5
仙台	3.3	59.1	165.8	2.3	2.9	4.0
石巻	2.6	55.2	173.4	1.5	2.1	3.2
福島	3.6	62.2	162.2	2.4	3.1	4.3
白河	2.3	56.1	167.8	1.0	1.8	3.0
小名浜	5.2	80.3	177.4	4.2	4.8	5.8

なお、気温、降水量、日照時間の「平年並」の範囲は、地点ごとに幾分違いはありますが、下に示した地域平均の「平年並」の範囲を参考にして下さい。

（２）1971～2000 年のデータに基づいた向こう 1 か月地域平均の気温、降水量、日照時間の平年差（比）の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	気温平年差( )	降水量平年比(%)	日照時間平年比(%)
東北地方	-0.6～+0.6	83～ 111	94～ 106
東北日本海側	-0.6～+0.6	90～ 108	92～ 108
東北太平洋側	-0.6～+0.6	78～ 115	96～ 105

（３）この予報期間の 1 週目、2 週目、3 ～ 4 週目の地域平均の気温平年差の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	1 週目	2 週目	3 ～ 4 週目
東北地方	-0.9～+0.8	-0.7～+0.7	-0.5～+0.4
東北日本海側	-0.8～+0.8	-0.7～+0.7	-0.5～+0.5
東北太平洋側	-0.8～+0.8	-0.7～+0.7	-0.4～+0.5

< 参考資料（利用上の注意） >

（１）気温・降水量等は、「低い（少ない）」「平年並」「高い（多い）」の 3 つの階級で予報します。階級の幅は、1971～2000 年の 30 年間に於ける各階級の出現率が等分（それぞれ 33％）となるように決めてあります（気候的出現率と呼びます）。

（２）確率は、それぞれの階級が実際に起こると予想される割合を表しています。信頼性の大きい予測資料が得られた場合には気候的出現率（階級の定義から各階級とも同じで 33％）から大きく隔たった確率（10％や 60％、70％など）を付けられますが、信頼性が小さい場合には気候的出現率と同じかそれと同程度（30％、40％）の確率しか付けられません。

（３）晴れや雨などの天気日数は、平年の日数よりも多い（少ない）場合は「平年に比べて多い（少ない）」、また平年の日数と同程度に多い（少ない）場合には「平年と同様に多い（少ない）」と表現します。なお、単に多い（少ない）と表現した場合には対象期間の 2 分の 1 より多い（少ない）ことを意味します。

# 東北地方 1 か月予報解説資料

平成 16 年 2 月 20 日 仙台管区気象台

## 1. 実現の可能性が最も大きい天候

向こう 1 か月(2 月 21 日～3 月 20 日) :

気圧の谷が数日の周期で通過し、通過後は冬型の気圧配置となるでしょう。寒暖の変動が大きい見込みです。平年と同様に東北日本海側では曇りや雨または雪の日が多く、東北太平洋側では晴れる日が多いでしょう。

平均気温は平年並でしょう。

### 1 週目(2 月 21 日～2 月 27 日) :

明後日(22 日)から 23 日にかけて発達した低気圧が通り、荒れた天気となるでしょう。期間の中頃は高気圧に覆われ晴れますが、期間の終わりは気圧の谷や寒気の影響で天気が崩れる見込みです。

平均気温は高いでしょう。

### 2 週目(2 月 28 日～3 月 5 日) :

気圧の谷が数日の周期で通過し、通過後は冬型の気圧配置となるでしょう。平年と同様に東北日本海側では曇りや雪または雨の日が多く、東北太平洋側では晴れる日が多いでしょう。

平均気温は平年並でしょう。

### 3～4 週目(3 月 6 日～3 月 19 日) :

気圧の谷が数日の周期で通過し、通過後は冬型の気圧配置となるでしょう。平年と同様に東北日本海側では曇りや雨または雪の日が多く、東北太平洋側では晴れる日が多いでしょう。

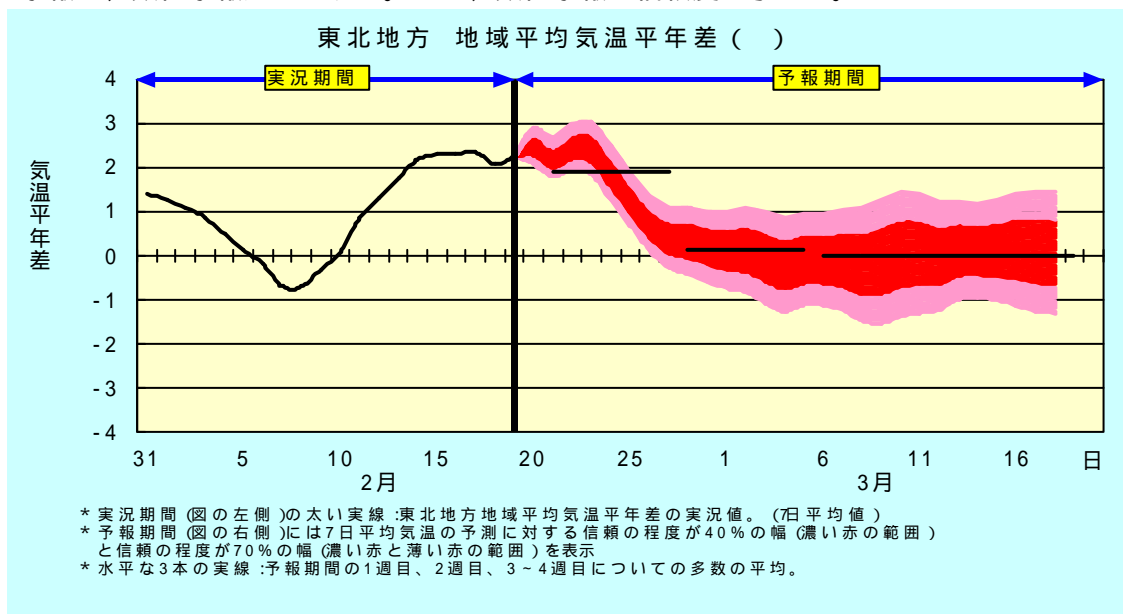
平均気温は平年並でしょう。

平年の晴れ日数

	向こう 28 日間	1 週目	2 週目	3～4 週目
東北日本海側	10.1 日	1.9 日	2.4 日	5.8 日
東北太平洋側	18.0 日	4.3 日	4.6 日	9.3 日

## 2. 東北地方の地域平均気温平年差の実況と数値予報による予測

数値予報による週別の気温は、1 週目は「高い」、2 週目と 3～4 週目は「平年並」と予測している。予報は、数値予報通りとする。なお、数値予報の信頼度は小さい。

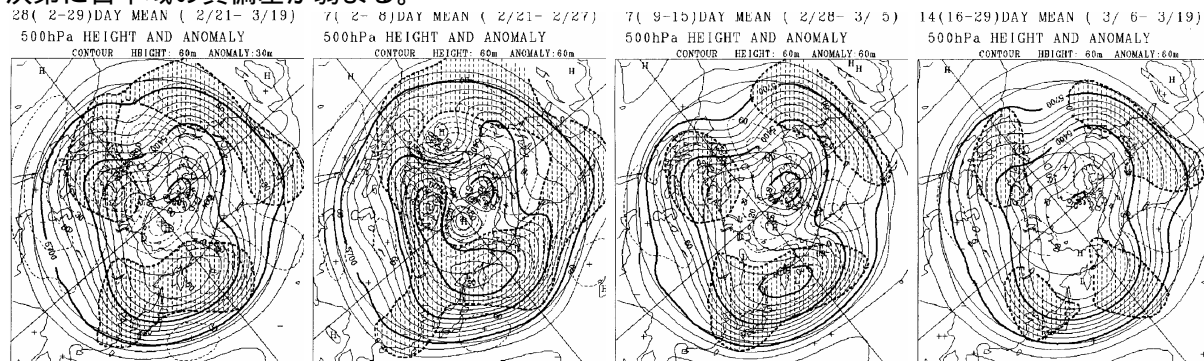


### 3．数値予報（アンサンブル平均天気図）による大気の流れの予想

500hPa 高度と偏差：

月平均では、極域は正偏差で中緯度はほぼ負偏差に覆われる。北日本は寒気の影響を受けやすいが、西谷で南からの暖気の影響もあり寒暖の変動が大きい。

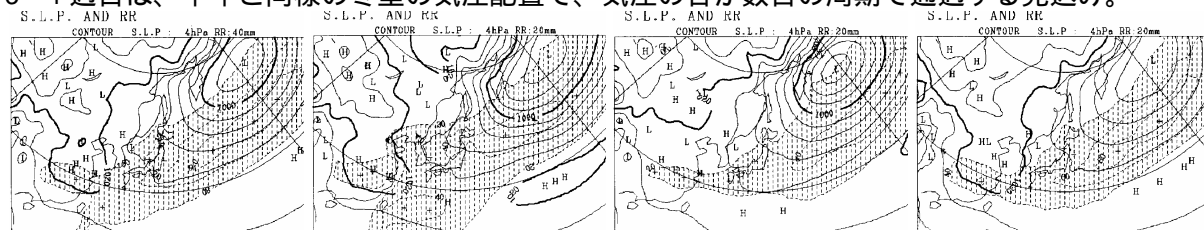
週別に見ると、1 週目は日本域は正偏差で、カムチャツカ半島付近に中心を持つ負偏差域が中国大陆に延びる。2 週目は、負偏差が日本付近を覆うが、西谷の傾向も見られる。3～4 週目は、次第に日本域の負偏差が弱まる。



地上気圧と降水量：

月平均では、冬型の気圧配置だが、等圧線の間隔が広く周期変化。降水域の中心は日本の南海上で、日本海側にもかかる。

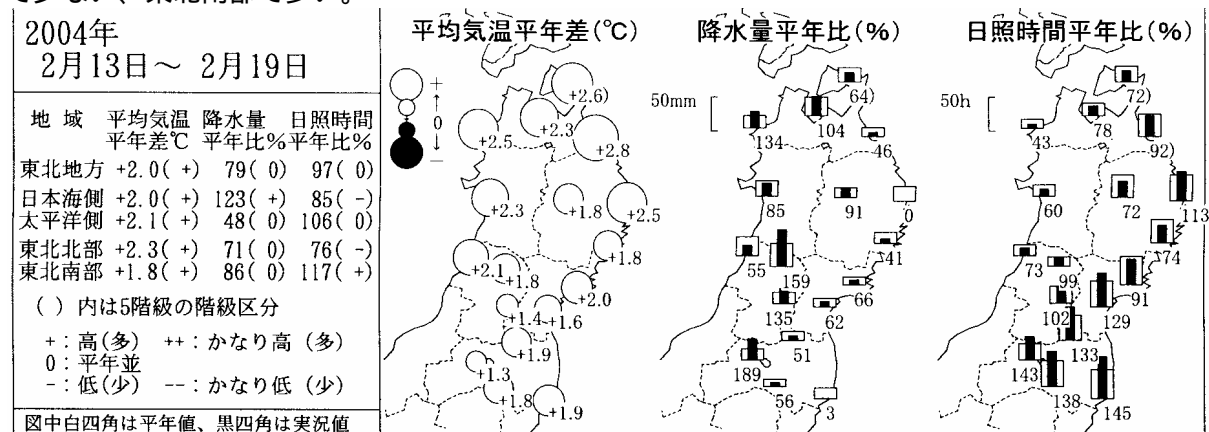
週別に見ると、1 週目は冬型の気圧配置だが、日本海に低圧部。広く降水域に覆われる。2 週目、3～4 週目は、平年と同様の冬型の気圧配置で、気圧の谷が数日の周期で通過する見込み。



### 4．最近 1 週間（2 月 13 日～2 月 19 日）の天候の経過

この期間、14日に低気圧が発達しながら北日本を通過し、その後強い冬型の気圧配置となった。15～16日にかけて強い風が吹き東北太平洋側でも雪となった所があり、交通機関などに影響が出た。後半は、東北日本海側は曇りや雪または雨の日が多く、東北太平洋側では概ね晴れたが、19日は気圧の谷が通過したため、東北南部を中心に雨や雪となった。

平均気温は高い。降水量は東北日本海側で多い、東北太平洋側で平年並。日照時間は東北北部で少ない、東北南部で多い。



最近 1 週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差(比)